

産業の動向

エネルギー多消費産業の非対称性

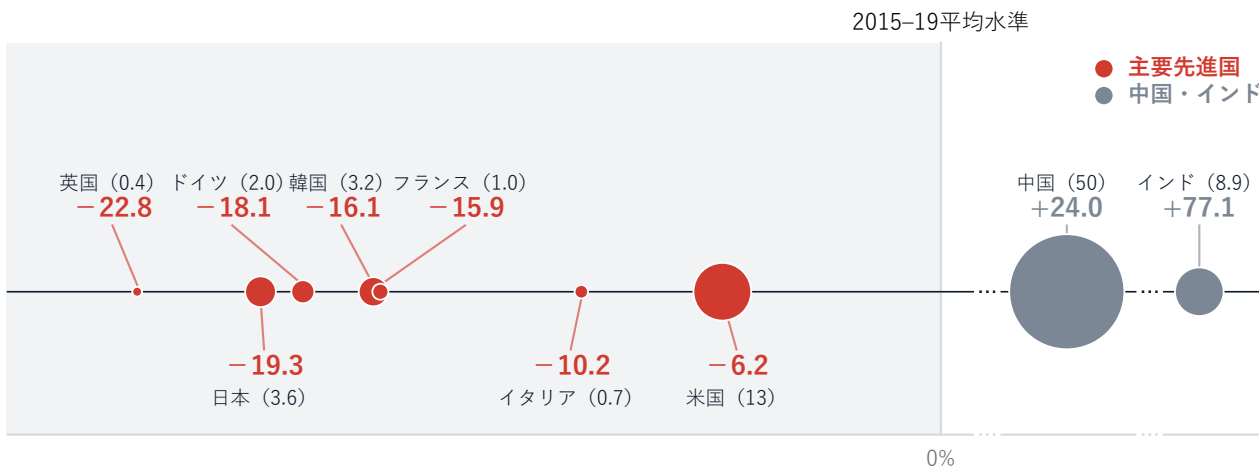
パンデミック後のエネルギー多消費（EITE）製造業の生産には、国際的に非対称な推移がみられる。2026年5月の生産水準は2015-19年平均に比べ、日本で19%、ドイツで18%、韓国で16%低い。一方、中国では24%、インドでは77%高く、パンデミック前からの拡大が続いている。こうした跛行性は、エネルギー価格や需要環境に加え、各国のエネルギー・環境政策の強度やタイミングとの関係にも注意を促す。

野村浩二・稲場翔（慶應義塾大学産業研究所）

2026年8月19日

日韓・欧州でエネルギー多消費製造業生産は低迷、中印では拡大が続く

2026年5月の2015-19年平均水準に対する変化率（速報値）



単位：％（2015-19年平均値に対する2026年5月値の変化率）。括弧内：2025年のEITE製造業の最終エネルギー消費量（EJ）。出典：ECM Database 202607。

注：EITE（energy-intensive and trade-exposed）製造業の生産量は、紙パルプ製造業（印刷業を除く）、化学工業（医薬品製造業を除く）、窯業・土石製品製造業、鉄鋼業、非鉄金属製造業の集計値（前暦年粗生産額ウェイトによるトランスログ指数）。バブル面積は2025年におけるEITE製造業の最終エネルギー消費量に比例する。ただし、最終エネルギー消費量には印刷業および医薬品製造業を含む。

エネルギーモニター | EM2601 慶應義塾大学産業研究所

エネルギーモニターについて

エネルギーモニター（Energy Monitor: EM）は、主要国のエネルギーコスト・需給および産業の動向を紹介するニュースレターです。分析は、エネルギーコスト・モニタリング（Energy Cost Monitoring: ECM）が毎月公表するECM Databaseに基づきます。掲載する各指標は速報推計値であり、基礎データの更新・拡充や推計方法の改善に伴い、今後改訂される場合があります。

リンク

[エネルギーモニター](#)[ECM Japan](#)[ECM Dashboard](#)

エネルギーモニターのバックナンバーおよびニュースレター配信の登録は専用サイト、ECM各種指標の国内動向はECM Japan、国際比較はECM Dashboardをご覧ください。